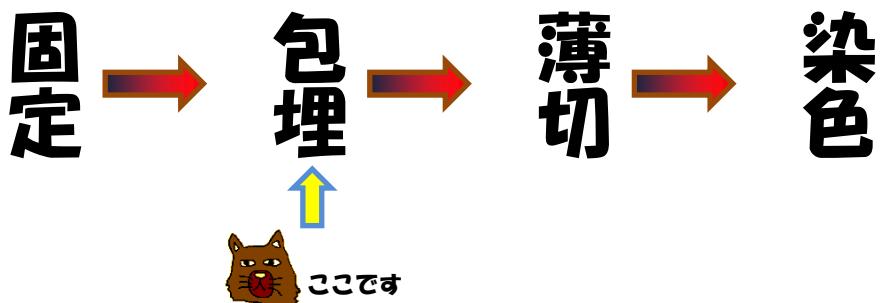


組織標本の作り方[第二回]

組織標本の作り方、第二回目です。前回の「固定」に続き、次の「包埋」の工程に移ります。

前回→ <http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000130299.html>



組織標本を作製するとき、固定後の組織をそのまま薄く切ろうとしても、うまく切ることはできません。そのため、ろうそくの「ろう」のような材質に組織を閉じ込め、ブロックを作つて切ることになります。このブロックを作るまでの工程を「包埋」といいます。

この時使われる「ろう」のような薬剤を包埋剤といい、京都市ではパラフィンを用いています。ただ、パラフィンは水に溶けないため、いきなり使用しても組織には浸透しません。そのため、前処置として、エタノールによる脱水、次にエタノールとパラフィンの両方に親和性のあるキシレンへの置換、そしてパラフィンへの浸透といったプロセスを必要とします。



パラフィンが浸透すると
少し黒くなりました。

包埋ブロック作製装置です。
(ドイツ製)



京都市の自動包埋装置です。

18時間で自動的にパラフィン浸透までやってくれます。



蓋をして冷やすと…



パラフィンブロックができました！

ステンレス皿に組織とパラフィンを入れます。

第三回へつづく